参考資料

大川小学校事故検証「事実情報に関するとりまとめ」に基づき皆様からお寄せいただいたご意見

お寄せいただいたご意見について、下記の通り公表させていただきます。

１．当委員会における情報の取扱い規程に基づき、以下の情報については非公開とします。

- 個人情報及びプライバシー情報に該当する箇所
  例）意見者に関する情報、文中の個人情報・プライバシー情報
  ただし、公に広く周知されている人物を除く
- 他の著作権者による著作等からの、通常の引用範囲を超えた引用
  例）新聞記事の大部分を引用されている箇所など
- 当委員会が非公開の取扱いとしている情報を明らかにする記述
  例）当委員会が実施した聴き取りの内容等
- その他、個人の誹謗中傷に当たるおそれのある記述等

２．お寄せいただいたご意見の中には、当検証委員会の公表した「事実情報とりまとめ」などの内容について、明らかに事実誤認があると思われるものも含まれていますが、個別の訂正・注釈など行わず、すべていただいたご意見のままとしています。今後、委員会としては、こうした誤解が生じることのないよう、よりわかりやすい資料等の作成に努力して参ります。

ご意見１

[redacted]

この度は一般人からの意見も募集すると言う事で私の意見、思いを述べさせて頂きます、

まずは単純に義務教育の小学校において校内及び敷地内における管理責任が学校側にある事は歴然で有るにも関わらずその記載がどこにも見当たらない事、
既に約２年半もの時間が経過してるにもかかわらずくだらない検証等に時間と予算を使い何の進展もしていない事
むしろ確信に迫る事実を伏せたいとしかおもえない報告
また未だにご遺族の方々に公式な謝罪が無いこと
一般人からみれば誰が考えても難しい結論などそうそうなく至って簡単な気がしてなりませんが
やはりご遺族の方々の立場、目線から考える必要があるのでは
学校側は管理責任を認め
学校側はご遺族に対し謝罪し
そんな無駄な時間と予算を使うならばもっと別の復興の為に使えたのでは
勿論早期和解を望んでいるからこそ認める事は認めて行かないとまえには進まないのではないでしょうか
以上

ご意見２

はじめまして。

このたび、大川小学校の事故に関するアンケート、及び資料を読ませていただきました。
津波について、長面尾崎以外の地区住民のみなさんの意識があまり高くなく
避難場所や避難の方法についても、あまり知れ渡っていなかったことはわかりました。
　北上川の水位計データ等に基づく、津波到達時刻、到達経緯についてもわかりました。
　しかし、大川小学校でお子さんを亡くされた遺族の方、家族を亡くされた遺族の方が求めている結果は、そこではないと思われます。

(a)「事実情報に関するとりまとめ」に追加・修正が必要と考えられる事実情報、
及びその根拠となる情報について

私は事故後、何度か大川小学校に足を運びました。
現地に着いて一番最初に感じた感情は「悔しい」でした。
学校の裏側に山があるのに、なぜそこに避難しなかったのか。
実際この目で確かめ、地元の方立会いのもと、山にも登ってみました。

・・・簡単に登れる山でした。

[事前対策などの背景要因]にある、
・崩れやすい山（という認識）
・登りやすい避難路なし
・教職員の中に、裏山に詳しい者なし
という事由には頭を傾げざるを得ません。
どんなに崩れやすい山だとしても、人間（しかもほとんどが子供）が 100 人くらい登った程度で崩れる山があるでしょうか？
あるとしたら、それこそもっと厳重に山崩れ防止策が取られていたはずです。
地元の方に聞いた話では、小学校で裏山に入っての野外活動があったと聞いています。
裏山に詳しい先生もいらっしゃったのではないでしょうか？

それから「山へ逃げよう！」と駆け出した 6 年生の子供を叱って引き戻した、とも聞きました。
その話は事実を確認中とのことですが、正直に話している子供たちの話を、ちゃんと聞いてあげてほしいと思います。
闇雲にされたら、その子は一生心に傷を負って生きてかなければなりません。
危機意識が薄かったように報告されていますが、子供たちは不安でいっぱいだったと思います。
泣き出したり、嘔吐したりする子がいた、とも聞いています。
私も仙台であの地震を体験しました。
いつまでも治まらない余震と雪が舞う寒さの中
「もう終わりかもしれない・・・」と思った不安を思い出します。

最終的に避難場所として向かった三角地帯も実際目にしましたが、なぜこんな場所へ？というのが正直な感想です。
もっと高い所へ早い時間に避難してほしかった、というのが、現場を見ての思いです。

(b)事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について

あの日は、校長先生ご不在ということで、責任をもって指示できる方がいらっしゃらなかったことも要因のひとつと思われますが、それも残念でなりません。

学校は、人の命を預かっているということを第一に考えてほしいと思います。
学校に行っている間、親は子供のすべてを託しているわけです。
学校にいるなら大丈夫！、そう思える環境であってほしいと思います。

対策としては、すべての学校において、避難対策責任者（教師）を数名認定し、自分の学校の建物構造、周りの地形、避難方法などをしっかり決めておく必要があると思われます。
それを学校内はもとより、児童の親・家族にも広く周知させておく必要もあるでしょう。
そして、避難訓練は真剣に行う必要があると思います。

「釜石の奇跡」と言われた、小中学生の誰一人、命を落とすことなく避難した事例があります。
http://www.pref.ehime.jp/chu52117/bousai/documents/manual_0413-14.pdf
http://www.ce.gunma-u.ac.jp/news/pp_20110413_2.pdf

この事例通り、普段から徹底していれば助かる命もあったはずです。
先生が、子供の意見に耳を傾けていることも注目すべきところではないでしょうか？

実際に体験した子供たち、生還された先生の話を十分に聞いてほしいと思います。

的外れな意見になっているかも知れません。すいません。
大事なお子さんの命を突然奪われたご遺族の方々の、
安らげる日々が一日も早く訪れることを、蔭ながら祈っています。

①意見者に関する情報
氏名：[redacted]
住所：
職業
連絡先

ご意見３

別 紙 意見提出様式例　　※必ずしもこの様式を用いる必要はありません。

大川小学校事故検証「事実情報に関するとりまとめ」に基づく意見

①意見者に関する情報

氏名	[redacted]
住所	
職業（具体的に）	
連絡先　電話番号 又はメールアドレス	

②意見の内容

(a)「事実情報に関するとりまとめ」に追記・修正が必要と考えられる事実情報、及びその根拠となる情報

追記・修正が必要な事実情報	その根拠となる情報
61ページ以後	
・教頭は裏山への避難を考えていたが、区長とのやりとりで、三角地帯への避難になった経緯	・3回目の保護者説明会の折に配布された「大川小学校聞き取り調査記録」によると、聞き取り証言があるが。
・裏山へ避難しなかった理由・根拠	・同上
63ページ	
・15:25以後の時間の経過が明らかでない	
・市または消防の広報車が15:15~1520に大津波警報の避難の呼び掛けがあった?	・同上

(b)事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について

72ページ1行目　「父兄」⇒訂正　「保護者」

ご意見４

１．　意見提出者に関する情報

・氏名：[redacted]

・住所：

・職業：

・連絡先

・備考：二人の娘の父親であり、友人のお子さんが大川小学校で被災した為、今回の検証内容に興味をもっております。

２．　意見の内容

(a)　追加が必要と考えられる事実情報

地震国日本に住む以上、今後、想定を上回る地震や津波がいつどこで起きるかわかりません。そのような中で、学校という教育の現場で、死者・行方不明者８４名という悲劇が二度と繰り返されないよう対策を考えるにあたっては、まず、当日、大川小学校でなにが起こったのか、誰がどんな判断・行動をしたのかを正確に把握することから始める必要があると考えます。

そのような点からすると、現状の事実情報に関するとりまとめは全く不十分なものではないかと判断されます。まず必要なことは、津波の中、生き残った先生や生徒のヒアリングを丁寧に行い、当日の状況を正確に把握することで、その上で、必要があれば、地域住民の意識調査等を行えばよいのであって、これまでの検証は順番が逆であると言わざるを得ません。生き残った５名へのヒアリングはしっかり行われているのでしょうか。生存者の方たちにとっては、とてもつらいことですが、真実を把握する為、生存者の方たちとのコミュニケーションを深め、情報を引き出していくことこそ、調査委員会の皆さんに期待されていることです。

最終の報告書への課題との認識は持たれているようですので、どのような報告書が提出されるか期待したいところですが、一番肝心なところが抜け落ちている現状の報告書では真実は全くわかりません。

ヒアリングしたが真実はわからなかったといった全く意味をなさない報告に終わらないよう、確実な検証をお願いします。

(b)　事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について

今後の再発防止対策を考える上で、上記の真実の把握が最も大切だと思います。私も２度ほど現場に行ってみましたが、なぜ、普段きのこ栽培をおこなっている裏山に逃げなかったのか不思議でなりません。未曾有の大津波で安全への過信があったといってしまえばそれまでかもしれませんが、それでは再発防止につながりません。地震発生から津波の到来までは十分な時間があり、ラジオで情報を収集するとか、先生が近くの川まで様子を見に行ってみるといった行動はなかったのか、最悪の事態を考えて山に逃げることを考えなかったのか。「山に逃げよう」といった子供もあったと聞いていますが、なぜそれが採用されなかったのか。

我々は学校を信じて子供たちを預けております。従って、学校では何かが起こった時、最善の判断を行って子供達を守って欲しい、その為の準備・訓練を怠らないでほしいと願っています。大川小の準備・訓練は不十分なものであったようですが、なにがどう不十分であったかを検証する為にも、当日の行動や判断を正確に掴み、事故発生の原因と必要であった対策を明らかにして頂きたいと思います。

危機に望んだ時はリーダーの考え方、判断が生死を決めます。学校におけるリーダーである先生たちの考え方や判断はどうだったのか、先生たちの中でなにがどうやって決定されたのか、校長がいない状況でだれがどんな行動、判断をしたのか、こういったことの解明が再発防止を可能にすると考えます。

本件の正確な検証が、将来発生が予想される大地震による学校での被害を最小限に抑えることにつながると期待しております。

ご意見５

①意見者に関する情報

氏名　：[redacted]

住所　：

職業　：

連絡先：

②意見の内容

(b) 事故の要因や再発防止策のあり方について

本来の委員会の目的は「なぜ多くの犠牲者が出たのか」「今回のことを踏まえて将来なにができるのか」がテーマであれば、シンプルにその項目を中心に進めた方がよりスピーディで効果的ではないかと考えます。一人ひとりに聞いて行き情報の蓄積をしていくことかと思います。

記憶が薄れていくなかで本当に何が「事実」であるかということを分析し、認定できるのか、だんだんあやふやになってくるので、できるだけ多くの証言を取集し、客観性を担保するためにも、それをすべて公開してもいいのではと思います(巻末の資料としてもいいのでは)。

また、報告書（案）では「事実」とは何か、それを分析し、認定する基準が何かはっきりしていない印象です。また、証言によっては「精査中で掲載しなかった」ということのようですが、では精査して掲載する・しないの判断基準は何かを明示すべきとおもいました。

ご意見６

１．意見者に関する情報

氏名：[redacted]

住所：

職業：

連絡先

２．意見

(a)「事実情報に関するとりまとめ」に追記・修正が必要と考えられる事実情報、及びその根拠となる情報

貴委員会の取りまとめを拝読しましたが、生存者５名からのヒアリングやその内容が含まれておらず、今般の事故検証で最も重要とされる情報が不十分であると思われます。

当日の学校の教職員の行動やなぜそのような行動にいたったのかの検証のためにも、事実を確認し、それを明らかにしていただきたいと思います。

同小学校に児童を通わせていた友人（ご遺族）からの伝聞になりますが、学校の裏山には児童たちが学校管理下時間に何度も登っていた経験のある裏山があり、そこへの避難を行っていればもっと多くの児童や教職員の方々の命が助かったという情報もあると聞いています。

事実、私自身もその情報とは別に山へ登ろうと発言した児童もいたとの公共の報道やレポートを複数見聞しています。

そういった情報が全く織り込まれていない、今回の取りまとめには、残念ながら事実関係が十分取りまとめられているとは思われません。

また、当日の児童や近隣住民の様子に関する聞き取りの記載を拝見すると、危機意識の欠如があったかのような表現がありますが、あのような大きな地震を経験した児童たちが皆、通常の会話を行っていたとは到底考えられ

ず、聞き取り内容がすべて記載されているのかという点に大きな疑問が残ります。
（これは、自分自身が子供時代に宮城県沖地震を下校途中に体験した経験からもそのように考えます。）
(b)　　事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について
今般の事故検証においては、学校側と遺族側での意見の相違や、地域におけるさまざまな住民感情などがあり、かつ多くの方が犠牲になったこともあり思うような検証が進んでいないのか知れませんが、学校管理下での大きな被害を出した事例を風化させることなく、事実を明らかにした上で、なぜ、大川小学校では他校で行うことができた避難が遂行できなかったのか、その判断が下せなかった原因はどこにあるのか、そして、どのようにすれば、今後、同じような事故が起こらないようにできるのかを究明していっていただきたいと思います。
そのためには、やはり、現在の取りまとめに不十分な同小学校の事故の生存者の皆さんへのヒアリングを行っていただき、それを明らかにしていた上での、要因の分析や再発防止策ではないかと思量いたします。
よろしくお願いします。
以上
[redacted]

ご意見７

[redacted]

追記・修正が必要な事実情報など、むずかしくて良くわかりませんが、ご遺族の方から伺った話と違っています。
どうして、大川小学校だけ、たくさんの子どもが亡くなったのですか？
その前の時間、安全なところに逃げる時間はあったと聞きましたが、その間どうして逃げなかったのですか？？
子どもを持つ親としては、二度とこんな事が無い様にするのが、大人の責任ではないかと思います。
真実が知りたいです。わかりやすい言葉で知りたいです。
委員会に、被災されたお子さんを持つ親は入っていないと聞きました。
いろんな立場の人の意見も聞くべきではないでしょうか。
そして、その真実を事実を皆が知った上で対策を考え、全国に何を注意したら良いか、日頃こういうことをやっていれば・・・。など、教えて頂きたいです。
そこまでやらないと、これからの日本を支えるべきたくさんの命を犠牲にした事が、無駄になるのではないかと思えてなりません。
少なくとも、人災は無くしていく義務があると思います。
よろしくお願い致します。

ご意見８

大川小学校事故検証「事実情報に関するとりまとめ」に基づく意見書

①意見者情報

氏名：[redacted]

住所：

所属：

連絡先

②意見の内容

意見の根拠：意見者は2011年7月より、これまで6回にわたって石巻を訪問し大川小学校で亡くなった子どもの保護者の方々と直接お話し、また九州にもお出で頂いてお話を伺い、交流を続けてきました。

また教育委員会からの説明会の当日会場での録画をみました。

また生き残った先生のFAXに関する新聞記事(2011年11月の朝日新聞)等を読みました。

以上を参考として「中間まとめ」と比較検討して、以下の意見を述べさせていただきます。

事故検証委員会は、74人の子どもたちが空からその動向を見ているとの認識を肝に銘じて今後の検証を行っていただきたく思います。

意見：

１）この事故検証の大きな目的は、子どもたちが何故長時間校庭に止め置かれたのか？その背景になる判断の曖昧さは何から生じたのか？の検証だと思います。そのためには、当日の校庭でのやりとりは最も重要となり、生き残った子どもたちや教員の証言は何よりの確たる証拠と思われますが、事故検証委員会がそのだれといつ、どのくらいの面接を行ったのかが明確でありません。

２）「現時点で判明している主な事実情報を整理したもの」の公表ということですが、「中間まとめ」とのことばも見受けられ、通常「中間まとめ」とはほぼ全貌が見えていて、後は誤字の修正などの微調整である場合が多くの行政書類です。もしそうだとすると、これが報告書の全貌と言うことになり、校庭での50分の動向や決定について全く検証されていません。もし、「これは中間ですから」というなら、肝心なところにたどり着いていない「途中まで」という意味の中間の報告を提出して学識経験者から何を引き出したいのでしょうか。

保護者が独自に検証してきた数々の情報にも全く届いていないここまでの記録程度で、なぜ2000万円もかかるのか？その詳細な会計報告を求めた上での追加予算3700万円なのでしょうか？

３）事故後、校長が数日間学校現場に戻っていないことの理由やその後の奇異と思われる

行動（卒業記念品・進級記念品の配布など）について、検証されていません。

４）生き残った教員の証言が事故直後と新聞記事で異なることについて検証されていません。新聞記事では「自分がどうやって助かったのか」について一言も触れていないので、生き残った教員の直接的な証言は事故検証委員会の役割でしょう。

５）第２回の説明会の録画を見せてもらいましたが、「1 時間のみ」と宣言してはじめることや、1 時間経ったら保護者が質問しているにもかかわらず全員が立ち上がって退席する姿を目の当たりにして愕然としました。決して子どもたちの命を大事に思っている態度ではないと思いますが、あの決定と指示はどなたが出したものなのでしょうか？検証をお願いします。

６）証言をした子どものことばが教育委員会の報告書にないこと、今回もそれが検証されていないことについて「確認されていない」との説明のようですが、だとしたら「子どもたちはゲームの話をしていた」などの記載されている情報は、誰の証言であり別の誰によって確認されたものであるのかを明らかにしてください。

７）子どもの証言のメモを廃棄した教育委員会の主事のしたことは証拠隠滅とも言える犯罪行為でしょう。この主事のこの行為についての処分について報告されていません。

８）2010 年度に避難訓練が全くなされていなかったことについて、検証が不十分です。校長の怠慢で済むことではありません。もっと海沿いでも、保護者も巻き込んで年に数回の避難訓練を実施していた小学校は助かっています。教育委員会の避難訓練の確認や指導が適切でなかったことの検証がなされていません。

９）2011 年度の大川小学校の子どもたちにどのような心理的ケアをされたのかが検証されていません。校長を除くとたった 2 人の先生。[redacted]
2011 年度の運動会が実施されなかったとも聴きます。この点についても検証してください。

事故の再発防止は死者に鞭打つようなことも必然的に生じると思いますが、二度と子どもたちの助かるはずの命が失われないように、真摯な気持ちでの検証をよろしくお願いいたします。

ご意見９

意見者 [redacted]
住所
職業
連絡先
意見の内容
（ａ）「事実情報に関する取りまとめ」に追記・修正が必要と考えられる事実情報、及びその根拠となる情報
追記・修正が必要な事実情報
　遺族、子どもを失った保護者や児童の聞き取りを行い（行っているかも知れないが）その内容を取りまとめに明示すべき。
　中間とりまとめには推測として記載されている部分もある。ならば、その推測と異なっている証言についても記載しないとまったく不公平な報告となる。
その根拠となる情報
　検証委員会自身も遺族の視点で検討していく事を明らかにしている。又、有識者からの意見も被害者遺族の立場に立った検証が必要だと述べている。

（ｂ）事故の要因や今後の再発防止対策の在り方について
　何があったのか、真実を明らかにしなければ再発防止はできない。行政、教育委員会そして住民一体となって防止システムの構築が必要である。
教育委員会は何があっても子どもの命を守るという原点に立ったシステムの構築を望む。

ご意見１０

意見者 [redacted]
住所
職業
連絡先
意見の内容
大川小学校のご家族の方々のお話を直接お聞きしました。ご家族や子どもたちの意見をもっと聞いて寄り添った検証をして下さい❣
私が聞く限りでは、寄り添った検証がなされてないようです❣

ご意見１１

氏名：[redacted]
住所：
職業：
メール

東日本大震災は、未曾有の災害であり、多くの方が犠牲者となりました。
悲劇は数え切れないほど起きているはずで、それはそれぞれ比較されるべきものではなく、大きいも小さいもあ

りません。

ただ、大川小の悲劇は違います。特殊です。
学校管理下で 74 人もの小学生が亡くなったという事実、
他にはそんな悲劇はどこにもなかったという事実。
受け止めるべき事実は、果てしなく深いと思います。

そもそも、その覚悟があって検証委員会なるものを立ち上げたのでしょうか。
その覚悟があって委員を拝命されたのでしょうか。
甚だ疑問です。

とりまとめを拝見しても、何も感じません。
そこに気持ちがないからです。
ともすれば、このまま、「推定される」の乱用で、あったこともなかったことにしようとするお気持ちだけは伝わってきます。

実はシンプルで、簡単なことだと思います。
調べて、わかったことはすべて公開する。
認める、認めないではなく、ありのままをさらけ出す。
怒る人がいて、謝る人がいて、当然だと思います。

どうか、血の通った検証をお願いします。
生々しい報告をお願いします。

急いでください。
もうこんなに時間が経過しています。

残された遺族の方々、地域の方々を納得させるような報告をし、
二度とこのような悲劇を起こさないための対策を立てる。

誰もが指摘するであろう、この二つの使命を担っていることを、今一度認識してください。
急いで、早く早く、やり遂げてください。

お願いします。

ご意見１２

わたしは「鬼」になる
　―大川小学校被災児遺族の悲痛な叫び―
[redacted]

　宮城県利府町に住む、10 年来の親友である[redacted]は、小児科専門の開業医である。もともとは内科医の私が、まがりなりにも子どもと関わっていられるのは、彼の力によるところが大きい。ましてや昨年の 3.11 以来、距離は幾分離れているにしても、同じ被災地の医療者として励まされ、励まし合ってきた。
「石巻に来てみませんか」
　突然誘われたのが、先月末のことである。石巻市立大川小学校では、東日本大震災による津波のために、74 人の児童と 10 人の教職員が死亡･行方不明となっている。午後 2 時 46 分の地震発生後、大津波警報が出されたのが 2 時 52 分。3 時 25 分、「津波が来る、高台へ避難を！」と巡回する広報車の呼びかけを聞くまで、生徒たちは校庭で待機させられていた。その時点で避難をはじめていれば、救われた命は多かった筈なものの、避難開始はそれから 10 分後の 3 時 35 分、それも、傾斜の緩やかな裏山へ向かわずに、何故か既に水が溢れている北上川に向かっての移動だったという。子どもたちの進行方向から、津波が押し寄せてきたことになる。
「何故、50 分もの間、生徒たちは校庭に引き止められていたのか」、「何故、逃げやすい裏山へ逃げずに、津波が来る川に向かって歩き出したのか」。教師たちは、何を考え、どう行動したのか、どう行動しようとしたのか。遺族たちの中に、多くの「何故・・・」が渦巻いている。当日学校にいた教師の中での生存者は、たったひとり。
　遺族たちは、学校側や石巻市、石巻市教育委員会（以下教委）に説明を求めたが、今だ納得のいく回答は得られていない（平成 24 年 8 月 5 日現在)。市と教委が開いた説明会も、一方的な説明に終始するばかりだったという。当初の「倒木があったので山には避難出来なかった」という教委の発言は、「津波が来る以前に倒木がある筈がない」という指摘を受けた後、「倒木があったように見えた」に訂正された。
　尊い命が失われた現実が、「未曾有の震災だから仕方がない」のひと言で、うやむやなまま片づけられようとしている。遺族たちの多くはそう感じている。「地震の後、何をおいても学校に駆けつけるべきだった」、「学校だから安全と思っていたせいで、子どもたちを見殺しにした」という自責の念にとらわれているのである。
[redacted]は、震災後の早い時期から、「ここねっと発達支援センター」を母体として急遽結成された「緊急こどもサポートチーム」と行動を伴にし、避難所での

子どもの心のケアに当たってきた。その経緯の中で、大川小学校の現実を知った。ここねっとサポートチームと伴に、毎週のように石巻を訪れ、遺族たちの話に耳を傾けた。

遺族たちははじめ、混乱の中呆然としたままだった。[redacted]たちが丁寧に向き合うことで、彼らの中に「落ちつき」が取り戻されていった。

「一生かかっても背負いきれない大きな荷物を、聴いてもらうことで整理して、何とか背負えるまでになった気がしています」

そう語った遺族がいる。

今年８月５日。遺族の有志が協力し、ここねっとの支援のもと、震災報告会を開催するという。[redacted]の誘いを断る理由はなかった。

報告会前日、ここねっとのメンバーと一緒に、大川小学校を訪れた。校舎の残骸が佇んでいるのみ、周囲の民家は津波に流され、街全体が消失していた。ここに逃げ込めば助かったであろう裏山にも登ってみた。あの日、何があったのか。案内してくださったＮさんが淡々と語ってくれた。Ｎさんは、５年生の息子さんを失っている。

その日の夜、同じくお子さんを亡くしたＳさん宅にご遺族たちが集まり、報告会の打ち合わせをした。私も、同席させていただいた。何をどのように語ればいいのか、明日集まってくる方々にどこまでのことを伝えるべきか、彼らこそが戸惑っているように見えた。小学３年の一人娘を失った母は、「いつ死のうかと、そればかり考えてきました。でも、このままでは娘に顔向けできないから、しょうがないから生きています」。唇を震わせていた。

「もう、腹を抱えて大笑いすることもないと思う」。

末っ子を失ったＫさんの悲痛な叫びも、私の胸を突き刺した。試練は、翌日に引き継がれた。報告会には、医療･保健福祉関係、教育関係者など、50余人が集まった。

遺族たちを苦しめていたのは、市や教委の対応ばかりではなかった。同じ大川小学校遺族の中でも、意識の格差が生じているという。「思い出したくない。あの日のことは一日でも早く忘れたいのに・・・」。Ｎさんや Ｓさん、Ｋさんたちに同調出来ない方々がいらっしゃることを聞いた。我が子を失った現実を「忘れたい」と思う気持ちも、理解出来ないわけではない。「そっとしておいて欲しい」。それも親であろう。しかし、「忘れられない、忘れたくない、忘れてはいけない」。それもまた、親なのだ。

「あの日、人生最大の神様からのプレゼントである自分の子どもを、迎えに行きませんでした」

再び、Ｋさんだった。溢れ出る涙を拭おうともせず、何度も言葉に詰まりながら、時にうつむき、時に私たちを見据え、心の中に淀んだものを全て吐き尽く

すかのように、Kさんは話し続けた。
「2人の子どもと80歳を過ぎた両親、そして息子の友達、目の前にいる『いのち』を守る事に必死でした」
「『3時前だ。学校にいるからあの子は大丈夫』、そう自分に言い聞かせて一晩を過ごしました」
「あの子が、どんな思いで最期を迎えたのか、知ってあげることが母としての、親としてのつとめと思います」
「教育委員会の説明会では、何一つとして、私たちの質問にまともな答えが返ってきません」
「知りたい。でも聞けない。聞く状況じゃない。まだ聞けない。まだ早い。我慢、我慢の毎日でした」
「担任の先生が、子どもたちに何を伝えていたのかさえ、分からない状況です」
「自分の子どもの死を、こんな風に、何も関係のない人に話さなければならない。そんな親がどこにいますか？」
「そっとしておいて欲しい。そう思っているかもしれません。死んだ子どもたち」
「それは出来ない。あなたの死を、無駄には出来ない。あなたの生きた証は残さなければならない」
「そのためなら、わたしは鬼になります！」
遺族たちの報告が終わった後、司会をされていた、ここねっと代表の[redacted]氏が、会場の何人かに発言を求めた。求められるままに、私もマイクを握らせていただいた。
「辛い胸の内を聴かせてくださってありがとうございました。よくお話ししてくださいました。でもね、K さん。鬼にならなくても、いいのではと思います。あなたを含めて、あなたに限らず、そこにおられるみなさんのおっしゃっていることは正しい。胸を張って、堂々と、あたりまえのことをあたりまえに訴えていけばいいのではと思います」
あの時の自分が何を話したのか、実はよく憶えていない。正直なところ、取り乱していた。
報告会が終わり、会場を出て駐車場まで[redacted]と歩いた。
「わざわざ来てくれて、ありがとうございました」
「いや、とんでもない。何も出来ないけど、何か役に立てればと思ったけど、やっぱりなんにも出来なかった」
「そんなことないですよ。先生は、居てくれるだけでいいんです」
[redacted]は、優しい男である。
「K さん、今はもう、鬼になるしかないのかもしれません。鬼を演じることで、

気持ちをなんとか保たせているんでしょうね」

そういう見方も、確かだと思った。1年以上、彼らに寄り添ってきた[redacted]だから云えることだろう。

「[redacted]先生たちも僕も、『相手を否定せず、強制せず、丁寧に向き合う』気持ちでやってきました。K さんにも、同じです。鬼にならないと居られないのなら、鬼になった K さんと向き合います。それが、本当の意味での『支援』だと思います」

私は、単純な人間である。ありのままに、思ったことを口にするしか能がない。[redacted]はどうだ。[redacted]氏はどうだ。ここねっとのメンバーたちはどうなのだ。自分がどう思うか、ではない。自分を考える前に、「相手」がいる。向き合っている相手の「想い」がある。「想い」の真ん中にはいつも、子どもたちがいる。

だからこそ、と思った。教委を含め、石巻市は大川小学校被災児遺族に対し、誠意を持って向き合い、徹底的に真相を究明していただきたい。遺族の悲しみを、このまま封じ込めることがあって欲しくはない。

[redacted]とは、近いうちにまた会うことを約束して別れた。[redacted]と友であることを、私は誇りに思う。

そして、この稿が、大川小被災問題の解決のきっかけの一助になることを、ただひたすらに願う。

著者略歴

[redacted]

医学博士、日本内科学会認定内科医、日本小児科医会子どもの心相談医、日本医師会認定産業医、日本禁煙科学会認定禁煙支援医、あだち地方地域自立支援協議会会長。

ご意見１３

氏名：[redacted]
住所：
職業：
連絡先

意見
(a)当日の行動に関して、まず生存者の言葉が記載されるべきではないでしょうか。
例えば 航空機事故の場合、ブラックボックスの回収により現場の生の声を知ることができます。
大川小学校では生存者がおられるのにも関わらず、その声が伝わってきません。
山へ逃げようと言った児童を呼び戻し、結果として死に至らしめたともききました。もちろん、なぜすぐ登れる裏山へ逃げなかったのかも疑問です。
石巻市や学校防災のマニュアルなどが多く記載されていますが、大川小学校で引渡し訓練が行われていなかった事、ただ一校だけが甚大な犠牲者を出している事をもっと重要視すべきではないのでしょうか。
また学校管理下での事故にも関わらず 保護者の意識が低かった所のみ強調されているようにしか読み取れない事は、同じ子を持つ親として不信感がつのるばかりです。ゲームなどの話をしていたと考えられる とありますが、ここ千葉市でさえ、続く余震に親も子も先生方も緊張した雰囲気で引渡しが行われていたのに、震源地に近く より大きな余震があったと思われる大川小の皆様が、そんなに悠長な気持ちでいらしたとは考えられません。
生存者を責める気持ちは毛頭なく、ただ真実を知りたいと思います。まだ幼い小学生の親御さんですから、子供の事、しかもそれが最期となったのなら尚の事と存じます。

参考：あの時、大川小でなにがおきたのか　青志社

ご意見１４

[redacted]

(b)について
僕自身は、2011 年 8 月 11 日に、大川小学校のご遺族の方を前に、鎮魂の音楽を捧げさせて頂きました。
細かな事情については知らない事の方が多く、このような意見募集には不適格かもしれませんが、一意見として書かせて頂きます。

あの地を訪れて、まず単純に思ったのは、後ろにあんな山があるのに何故？という疑問でした。
未曾有の事態であった事を考慮したとしても、既に多くの津波や地震を経験し、他の学校では上級生が下級生を引率して逃げるなど、実現可能な具体策が用意されて多くの命が助かったという事実もあり、こうした具体的取り組みに比して、大川小学校のとった避難の行程は、あまりにも酷いとしか言いようがありません。
既に用意されているとは思いますが、まだアウターライズの危険性も去った訳ではないですし、やはり避難訓練

のあり方なども、地形的な考慮も含め、有効だった事例を参考に沿岸部の学校が意見を交換し、より迅速で実行可能な避難のあり方を徹底して頂きたいと思います。

その際、決してシリアスな形で、恐怖を再燃させるようなものではなく、むしろ遊びの要素を加えたような、楽しいものであったら良いのではないかと思いました。
例えば大川小学校のような地形であれば、もっと普段から裏山で遊んだりして、道があってもなくても、自分なりに登ったり降りたりできるようにしておくという意味です。
単に整列して移動できるだけでは、突破的な状況に対処できません。
それぞれが自分で考えて行動できるような素地が必要なのではないかと思います。

稚拙な意見かもしれませんが、もし何かのお役に立てたら幸いです。
亡くなった子供たちのためにも、どうかよろしくお願いします。

ご意見１５

委員の皆様、日々事故検証に当り御苦労様です。
実家が石巻市に有るという事であの震災後について気にしてます。特に大川中学の被災は深く心に残り今だに悲しみが拭い切れません。
さて検証報告書を読ませて頂きましたが事実が隠されている事柄が有り、それを元に是からの検証が進められていくと思うに脅威を感じます。
あたら若い生命を奪われた子供達の為に真実の検証をして下さい。

ご意見１６

私は子どもを亡くした親の会という自助グループをしている者です。
今回の大川小学校の事故に関しては、こどもを亡くした親として非常に関心がありますし、ここでのあり方が今後の事件や事故の検証に大きく影響する（すでに影響している？）と思っています。
ここで明らかにされることやその方法、内容、検証委員会や国の態度をこれからの日本を背負っていく子たちに本当にこれが真実です。私たちは一生懸命、心を尽くして検証しました。と胸を張って子どもたちやご遺族の前で言えるのだろうかと思ってしまいます。
今、日本で起きている不祥事に対しての大人たち（私たちも含めて）態度がとても気になります。

検証委員会にも参加させていただきました。
色々感じるところはありますが、今回はご意見を求めていることに関しての意見を書きたいと思います。

(b)事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について

離れたところにいるものとして、明かされていることは検証委員会の報告書でしかする由もありません。
それが真実といわれればそう思わざるを得ません。
しかし、ご遺族が疑問を投げかけていることがあるのであれば、それに関して真摯にまずは向き合って、すべてを明らかにすべきではないでしょうか？
記録物の破棄や隠蔽などあってはならないことだと思います。

人間として日本人として、きちんとした態度で事故に向き合う姿勢がゼン手ではないでしょうか？
もう、二年半も過ぎています。
たぶん遺族は真実が明らかにされない限り、次の一歩を踏み出せないのではないでしょうか？
包み隠さず、すべてを明らかにしてください。そこから一つ一つ検証して行ってほしいです。

誰が悪いとかそういうことではなく、事実はどうだったのか。

遺族が調べたこととどこがどう異なっているのかも公表して、検証していくべきではないでしょうか？

検証委員会に参加したときに、検証委員の方々の態度に少し疑問を持ちました。
淡々とやっていかないといけないのかも知れませんが、自分たちがどういう役割でこの場所にいるのか、遺族のどういう想いを受け止めて検証しているのか、根底にあるいのちに対しての想いが本当にあるのかと感じました。
これはもしかすると、子どもを亡くした体験を持つ親だからそう感じたのかもしれません。
余計な事も書いてしまったのかもしれませんが、一意見として聴きとめていただければ幸いです。

氏名：[redacted]
住所：
連絡先
職業：

ご意見１７

①意見者に関する情報
氏名 [redacted]
住所
職業
連絡先
②意見の内容
(a)「事実情報に関するとりまとめ」に追記・修正が必要と考えられる事実情報、
及びその根拠となる情報
追記・修正が必要な事実情報
その根拠となる情報
(b)私（[redacted]）は震災後、2011 年 4 月 15 日、4 月 26 日と 2 度に亘り石巻市福地、[redacted]宅を訪問しました。さらに 2013 年 3 月 10 日にも訪問しています。その中で「（津波が来るから）山へ逃げよう」と進言した子どもがいた事を聞きました。
【2013 年月 3 日 10 日の私[redacted]の記録】
[redacted]宅に着いて、「[redacted]」ちゃんの祭壇にお供えをして、三回忌のお経を唱える。その後、ＮＨＫや地元放送局が制作した大川小学校についての番組を見ながら話を聞いた。妻と子どもを亡くしたものの、息子が奇跡的に助かった[redacted]さんが同席していた。助かった[redacted]君は、震災直後から当時の状況を証言し続けている。[redacted]

[redacted]さんは「俺たちが真実から目を背けていては、息子に恥ずかしい。俺たちの背中を子どもが見ている。」と語った。真実を明らかにすることは、辛いことを思い出すことだ。また、誰が何を言ったかを明らかにすることは、死んだ人の過失を暴くことでもある。誰だってそんなことを好き好んでやっているのではない。それでも真実から目を背けて生きていては、生き残った子どもや次世代の人々に不誠実な姿を見せていることになる。（以下略）

※今後の議論に生かして頂くことを心から祈ります。

事故の要因や今後の再発防止対策のあり方について